

令和4年度
北九州市立図書館の運営に関する評価

令和5年10月
北九州市立中央図書館

北九州市立図書館の運営に関する評価

I 基本的な方向性

- 1 これまでの図書館サービス（図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど）をさらに充実させる。
- 2 市民が抱える課題の解決を支援する。
- 3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

II 令和4年度事業目標

- 1 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
- 2 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
- 3 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

III 総括

① 令和4年度 事業目標に対する達成状況

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。

- 市内の各図書館において、障害のある方等の読書困難者に配慮した資料（LLブック、朗読CDなど）の充実を図った。
- 中央図書館において、障害者就労支援施設の協力による障害者サービス研修を実施し、職員の資質向上を図った。
- 中央図書館ではやさしい日本語や外国語で書かれた利用案内リーフレットの配布、やさしい日本語で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。
- 小倉南図書館では、アート作品の展示など、地域の障害者団体や特別支援学校との連携・交流を図った。

2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。

- 市内の各図書館において、市民の問題解決に役立つ特定のテーマ（健康・医療、高齢者向け、ビジネス支援等）の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に継続して取り組んだ。また、保健福祉局等と連携し、啓発月間等にあわせて、認知症啓発、発達障害啓発、児童虐待防止、自殺防止対策コーナーを随時設置した。
- 複数の地区館でメンタルヘルズ講座、健康促進に役立つリンパマッサージ講座、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会等を実施した。

3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

- 令和3年度に新設した「北九州市子ども読書の日」に関連して、大学などとも連携しながら子どもの読書活動の機運を高めるためのイベントを実施し、前年度を上回る入場者数を記録するなど読書や図書館への関心を高めることができた。
- 読み聞かせボランティア講座のうち、コロナ禍で一部中止していた講座を再開し、地域人材の育成を図ることができた。また、小中学生の図書館見学・職場体験件数の増加（前年度比）や学校等への貸出図書セットのさらなる充実や図書館職員（司書）・読み聞かせボランティアの派遣件数増加など、子どもの読書活動を支援するための取り組みを行った。
- 折尾分館の移転新設に際し、ヤングアダルト向け図書を集中的に購入した。また授乳及びおむつ替えができる「赤ちゃんの駅」を設置するなど、子どもと一緒に利用しやすい図書館のための施設整備を行った。

②総合評価(事業別評価及び運営改善措置)

令和4年度の北九州市立図書館は、継続して新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、コロナ禍前の状態に近づけるため、図書館サービスの提供再開・充実に努めた。特に、コロナ禍で一時中断せざるを得なかった事業を再開したり、市民がより利用しやすい図書館となるための事業などを厳しい状況下でも取組を継続した。これらの取組も含め、全52項目のうち完了・終了事業を除く50項目について評価した結果は次のとおりとなった。なお、令和4年度評価においては、コロナ禍前との比較及び令和4年度末までの推移という観点で評価するため、各項目において令和元年度から4か年分の実績を記載している。

	A評価	B評価	C評価	D評価	評価実施項目数	評価しない
令和4年度	7	42	1	0	50	2
令和3年度	5	41	1	2	49	3

※令和3年度分は記載誤りのため一部修正

昨年度に比べ、全体的に評価は上昇している。これは国の行動制限の緩和を受けイベントや講座などが再開されたことによるものである。特に、令和3年度に新設した「子ども読書の日」に関連するイベントを始め、子どもが読書や図書館に親しみきっかけを多く創出することができたため、それに係る項目を高く評価した。また、図書館の利用状況についても、コロナ禍前と同等とまでは言えないまでも、全ての数値において前年度と比して上昇が見られ、北九州市立図書館として継続してサービスの提供に尽力した成果があらわれたと考えられる。

なお、令和4年度に指定管理者による不正行為(圖書の貸出実績の水増し)があったことを踏まえ、図書館運営に対する市民の信頼を得ていくため、図書館におけるガバナンスやコンプライアンスの徹底を図っていく。

《参考資料》

【利用状況の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出者数	909,340人	610,336人	753,590人	816,041人
貸出冊数	3,423,930冊	2,427,889冊	3,003,649冊	3,129,884冊
来館者数	2,276,653人	1,077,811人	1,512,386人	1,901,535人
レファレンス件数	32,737件	20,648件	23,963件	30,864件
人口1人当たりの貸出冊数	3.61冊	2.58冊	3.22冊	3.36冊

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、以下の期間において臨時休館を行った。

令和2年2月28日～5月3日(66日間)、同6月3日～6月23日(21日間)、令和3年5月12日～6月20日(40日間)

【アンケートによる利用者満足度の状況(「非常に満足」・「満足」の割合)】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①本の品ぞろえ	87.7%	87.8%	88.8%
②本の探しやすさ	91.7%	92.9%	92.9%
③調べ物の役立ちさ	82.6%	90.0%	94.5%
④展示・行事の内容	79.4%	87.3%	94.1%
⑤対応の親切さ	92.6%	94.3%	99.0%
⑥説明の分かりやすさ	87.6%	90.9%	98.4%
①～⑥の平均	86.9%	90.5%	94.6%

IV 事業別評価及び運営改善措置

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された5つの視点に立った事業を行っている。その具体的取組50項目(終了・完了事業を除く)について、下記の基準を設けて評価を行った。

<評価の基準>

A	取組みに前進が見られるもの(新たな取組みが行われた、あるいは、実績が高水準を維持したか伸びたなど、大変順調である)。
B	現状維持レベルのもの(継続的・安定的に取組みが行われたり、あるいは、実績が一定水準で維持されたなど、順調である)。
C	予定通りに進まなかったもの(予定通りに進まなかったり、実績が下降傾向にあったりするなど、やや遅れている)。
D	全く進展がなかったもの(全く進展がなかったり、取組みが行われていなかったりするなど、遅れている)。
-	評価しない(外的要因等により評価できない、又は前年度で取組が終了・完了した)。

視点1 多様な施設とつながる図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 文学館などの文化施設との連携	①文化施設の 情報発信	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館では、文学館の企画展「かいけつゾロリ大冒険展」と連動して夏休み期間中に特別展示を行い、多くの子どもたちに「かいけつゾロリ」シリーズの本の貸し出しを行った。また、文学館の子どもノンフィクション文学大賞の特設コーナーを設置し、情報発信を行った。 ●八幡図書館では、北九州芸術劇場において、文化講演会を開催し、演劇の公演を行った。また、北九州芸術劇場と連携し、戯曲講座開催や自主事業「Re:北九州の記憶」の写真展を開催した。 ●他にも、各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設の広報物を図書館内に掲示するとともに、施設の催事に連動した図書資料の展示を行った。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関連イベントを実施するとともに、継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めた。取組については回数、内容ともコロナ禍以前と同程度の水準を維持したため「B」評価と判断した。
	図書館 評価		
	② 最寄りの 文化施設の 情報発信	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館では、文学館が発行する文学館文庫や文学館主催文学賞の受賞作品収集や松本清張記念館、美術館分館、芸術劇場などの発行する出版物の収集を行った。 ●子ども図書館では、文学館、美術館分館、松本清張記念館、小倉城、北九州芸術劇場などの最寄りの施設の広報物を設置した。 ●門司図書館では九州鉄道記念館、若松図書館では河伯洞、八幡西図書館ではひびしんホールや子どもの館、戸畑図書館では美術館、八幡南分館では長崎街道木屋瀬宿記念館など、各館で最寄りの施設の広報物を図書館内に設置したり、施設の催事に連動して図書館行事を行ったりした。 ●八幡図書館では、「やはたアートフォレスト2022～パレットの樹～」実行委員として参加している近隣の施設のチラシやポスターを展示した。また、北九州市立響ホールと共催で朗読コンサートを行い、回遊性を持たせて互いの施設をアピールした。さらに環境ミュージアムで東山彰良氏講演会を開催し同施設の周知を行った。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最寄りの文化施設と連携した情報発信を継続して行うことができたため、「B」評価と判断した。
	図書館 評価		

視点I 多様な施設とつながる図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 文学館などの文化施設との連携	③地元ゆかりの作家作品の充実 図書館評価 B (B)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	【取組状況】 ●中央図書館の特設文庫「松本清張文庫」、子ども図書館の「私たちのまちの児童文学コーナー」「ふるさと再発見コーナー」、門司図書館の「佐木隆三コーナー」、小倉南図書館の「藤田博士顕彰コーナー」、若松図書館の「火野葦平コーナー」、八幡図書館の「みずかみかずよコーナー」、戸畑図書館の「宗左近記念室」など、各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行った。 ●中央図書館の北九州資料室を中心に、利用の多い松本清張作品の買替えや本市ゆかりの人物の著作を購入するなど各館において福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し、配布している。 【評価の理由】 ●地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、「B」評価と判断した。
	④文化施設とのネットワークの構築 終了事業	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	●会議が終了したため評価を行わない。
(2) 他施設との連携	⑤大学図書館との連携 図書館評価 B (B)	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	【取組状況】 ●図書館の相互貸借を北九州市立大学及び九州国際大学と、相互連携協定に基づき実施した。 【評価の理由】 ●上記以外の大学は、協定がなくても個別に相互貸借を行っており「B」評価と判断した。

視点1 多様な施設とつながる図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 他施設との連携	⑥ 大学との連携 図書館評価 A (B)	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●門司図書館では、九州工業大学による子ども向けの出前科学講座を開催した。 ●小倉南図書館では、北九州市立大学、地域自治組織と連携し、「若園タウンパレード」の開催に協力した。 ●八幡図書館では、大衆演劇に詳しい京都文教大学鶴飼正樹教授を招き、戦前から戦後にかけて地元八幡で活動していた少女歌劇団についての内容を中心とした講演を行った。 ●戸畑図書館では、九州工業大学と連携して「サイエンスカフェ」(37名参加)、児童向け実験イベント(27名参加)を開催した。 ●子ども図書館では、「北九州市子ども読書の日」のイベントにおいて、北九州市立大学地域共生教育センターの「“ブンガクの街北九州”発信プロジェクト」の学生が図書館をめぐるクイズラリーを行った。また、同じく「平和の駅運動プロジェクト」の学生が平和に関する資料を集めて館内に展示するとともに、平和に関する絵本の読み聞かせを行った。 ●中央図書館、八幡西図書館及び折尾分館において、図書館見学の受入、講師派遣、ボランティア派遣など、九州女子大学司書課程の学生と相互協力関係の下、様々な事業を実施した。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学教員を講師に招いての講座を開催したり、学生と協力して行事を開催したりするなど、連携に努めたため、「A」評価と判断した。
	⑦ ネットワーク(連携)機能の充実 図書館評価 A (A)	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全ての図書館の館長が参加する図書館連絡会議を毎月開催することは出来なかったが、令和4年度は毎月開催した。 ●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報はじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。 ●中央図書館では、事件・事故・災害などの危機管理や市民対応について、地区図書館へ助言を行ったほか、公益通報制度について、地区図書館を運営する指定管理者への周知を図った。 ●子ども図書館は、学校と情報を共有し取り組みのベクトルを揃えるため、「児童サービス担当者会議」を開催し連携を図った。 <p>※令和4年度開催回数4回</p> <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館及び子ども図書館を中心とした市立図書館のネットワークをより強化することができたため、「A」評価と判断した。

視点1 多様な施設とつながる図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																													
(3) 身近なネットワークの構築	⑧市立図書館における観光情報などの提供 図書館評価 B (B)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	【取組状況】 ●中央図書館では、産業経済局MICE推進課の依頼を受け、カフェに広報誌「雲のうえ」コーナーを設置した。 ●小倉南図書館では、SDGsの展示の中で北九州市の取り組みを紹介した。また、市制60周年を記念して写真展や講演会を行った。 ●若松図書館では、「季刊ふるかわ」(旧古河鉱業ビル発行)のバックナンバーをすべてファイリングし、利用者閲覧可能とした。また、関門ノスタルジック海峡日本遺産展(図書館近隣の歴史的建造物)の特設展示を行った。 ●戸畑図書館では、市内各区制作の観光情報誌(小倉北区「COCURA」、小倉南区「南都」、戸畑区「飛幡」、八幡東区「虹色八景」、若松区「若松物語」)や歴史・街路探訪パンフレットの配布コーナーを設置した。 【評価の理由】 ●コロナ禍の中、観光産業自体が依然として縮小傾向にあったが、各図書館において継続して情報の収集・提供を行い市の魅力発信に努めたため、「B」評価と判断した。																													
	⑨ひまわり文庫の充実 図書館評価 B (B)	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	【取組状況】 ●市民センター等担当者との情報交換、利用者からのリクエストや貸出し傾向等によってニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本に努めた。 ●他館からの管理換えや寄贈図書の受入れなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。 【評価の理由】 ●図書館に来館することが困難な市民にとっては、市民センター等でひまわり文庫が利用でき、市民が身近に図書館の本を借りることができる場となっている。前年度に比べ、貸出者数、貸出冊数ともに増加しており、コロナ禍においては今まで以上に図書館を補完する役割を果たしているとして「B」評価と判断した。 【運営改善措置】 ●ひまわり文庫についてより多くの人に知ってもらい、利用者を増やすため、市政だより等を通じてひまわり文庫の周知に努める。 【ひまわり文庫の状況】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>129か所</td> <td>128か所</td> <td>128か所</td> <td>128か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>67,312冊</td> <td>73,751冊</td> <td>67,735冊</td> <td>64,779冊</td> </tr> <tr> <td>1か所当たり配本数</td> <td>522冊</td> <td>576冊</td> <td>532冊</td> <td>506冊</td> </tr> <tr> <td>年間貸出者数</td> <td>24,538人</td> <td>23,639人</td> <td>17,623人</td> <td>19,771人</td> </tr> <tr> <td>年間貸出冊数</td> <td>50,568冊</td> <td>55,490冊</td> <td>39,864冊</td> <td>42,455冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所	配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊	1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊	年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人	年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																												
設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所																												
配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊																												
1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊																												
年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人																												
年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊	42,455冊																												

視点1 多様な施設とつながる図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(3) 身近なネットワークの構築	⑩貸出文庫登録施設数の増加 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 図書館評価 B (B) </div>	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の利用施設を増加	【取組状況】 ●令和4年度は、保育園等に新規設置を行った。 【評価の理由】 ●設置施設の増減はあるものの、さまざまな施設に安定して貸出文庫を設置できているとして「B」評価と判断した。 【貸出文庫の状況】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>92か所</td> <td>91か所</td> <td>95か所</td> <td>96か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>22,240冊</td> <td>23,750冊</td> <td>21,662冊</td> <td>21,796冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所	配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所														
配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊														
【北九州市立図書館協議会による評価】 評価内容については、協議会として妥当と判断する。 大学や市の文化施設など様々な施設と連携していることが市民にわかるよう、ホームページや館内掲示などを活用して広報をすることを協議会として提案する。また、今後は県内で戦争遺跡が最も多くある市の図書館として、文化施設等と連携しながら、関連する郷土資料の収集・保存にも力を入れてほしい。																		

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベース化 図書館評価 B (B)	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	【取組状況】 ●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。 ●登録件数:令和3年度 270件、令和4年度 236件。(平成30年以降毎年、新規登録件数多数や登録事例の被参照件数多数等により国立国会図書館から表彰を受けている。) ●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることで、随時、最新の内容にアクセスできるようにしている。 【評価の理由】 ●レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、「B」評価と判断した。
	②レファレンス担当職員的能力向上 図書館評価 B (B)	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員的能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	【取組状況】 ●依然としてコロナによる影響で、集合研修については外部研修への参加、独自研修実施とも困難な面があったが、福岡県立図書館主催のレファレンス研修会には複数館から出席した。 ●国立国会図書館や文部科学省等が主催する研修会等でオンライン(ウェブ会議方式や動画配信)で実施されるものについては、移動を伴わずに受講することが可能であり、各館の職員が視聴した。 ●研修で学んだことを活かして、中央図書館では、北九州の郷土に関する「調べ方の近道案内」を作成、子ども図書館では子どもが調べものをする際の手助けとなる「調べもののおてつだい」をホームページに掲載した。 ●小倉南図書館では昨年度に続き、パスファインダーの項目を増やすなど取り組みを進めた。 ●八幡図書館では、ホームページにレファレンスのページを新設し、市民からのレファレンスとその回答を公開した。 【評価の理由】 ●困難な状況下にあっても様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、「B」評価と判断した。
	③レファレンス用図書・資料の充実 図書館評価 B (B)	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。 【評価の理由】 ●レファレンス用資料の充実に努めていることから「B」評価と判断した。

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
<p>(2) 特色ある図書館づくり</p>	<p>④課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>図書館評価</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B (B)</p> </div>	<p>・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施</p> <p>・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。 ●中央図書館でガン情報コーナーを設置する等各館で医療情報や健康に関するコーナーを設置している。各館において保健福祉局等と連携し、啓発月間等にあわせて、認知症啓発、発達障害啓発、児童虐待防止、自殺防止対策コーナーを随時設置した。 ●門司図書館、小倉南図書館、八幡西図書館及び島郷分館ではメンタルヘルス講座などを、若松図書館及び戸畑図書館では、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会を開催した。また、戸畑図書館では、健康促進に役立つリンパマッサージ講座を開催した。 ●八幡図書館では、歴史講座、歴史教養講座、戯曲講座、朗読講座などを開催した。 ●子ども図書館において、引き続き、 <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習コーナー ・読書感想文特設コーナー ・季節ごとの企画展示コーナー ・地元出身作家コーナー ・世界の絵本と地図のコーナー など、工夫をこらしたコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。 ●子ども図書館において、世界自殺予防デーや自殺予防週間に合わせ、「心がホッとする」をテーマに子どもがゆったり過ごせる特設コーナーを設置した。 ●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えている。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍ではあるものの、感染対策を徹底した上で、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実、講座の開催などに積極的に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	⑤地域の特性などを活かした図書館づくり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 図書館評価 B (B) </div>	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	【取組状況】 ●門司図書館では、懐かしの映画の上映会やその関連本の展示、古典や歴史に関する講座と関連本の展示、本を手にとりやすいよう、書架の位置替えや整理を行った。 ●小倉南図書館では、読書活動コーナーにおいて小倉南区の城跡、遺跡についてのパネル展示、地域の障害者団体、特別支援学校のアート作品の展示を行った。 ●若松図書館では、高齢者が多い地域のため、高齢者が本を選びやすいよう配慮した配架やシニアコーナー、高齢者就労支援資料コーナーの設置を行った。 ●八幡図書館では製鉄所・世界遺産関連、戸畑図書館では1960年代の戸畑区婦人協議会による環境活動、曾根分館では地域に多い農業従事者向けの園芸関係の本など、周辺の歴史や産業に関連した図書の充実やコーナー設置を行っている。 ●八幡西図書館では、実行委員会からの依頼を受け、タウンシップデーである黒崎96の日へ参加した。 ●大里分館、曾根分館、八幡西図書館では、子育て世代や児童の利用が多いため、子育て支援関連本や子ども向けの学習漫画やクイズ本などの収集を充実した。 ●島郷分館では、併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー(パソコン、ヨガ、絵画、写真)を設置している。 ●八幡図書館では、八幡の風景にまつわる切り絵講座を、八幡西図書館では、地域での要望が多かったメンタルヘルズ講座を開催した。 【評価の理由】 ●コロナ禍ではあるが、感染対策を徹底して、徐々に講演会や講座を開催できており、各館において、地域の特性を活かした資料収集や提供を継続的に進めることができたため、「B」評価と判断した。
	⑥郷土資料の充実 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 図書館評価 B (B) </div>	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	【取組状況】 ●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し配布した。 ●子ども図書館の本市の産業や取り組みを紹介する「ふるさと発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鐵所関連コーナーなど、各館において、郷土の特色や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。 ●子ども図書館では、「中村哲物語」や「平和への遺言」などの資料購入及び寄贈受入れを行った。 ●門司図書館では、お尋ねの多い門司、下関に関連する図書資料を集めるようにした。 ●戸畑図書館で八幡製鐵所に関する資料の寄贈受入を行うなど、各館の所在区の特色を反映した資料の収集に努めた。 【評価の理由】 ●郷土資料の収集を着実に行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みを継続的に進めていることから、「B」評価と判断した。

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	最寄りの文化施設の情報発信 再掲 視点1②	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	(略)
	地元ゆかりの作家作品の充実 再掲 視点1③	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催	(略)
	市立図書館における観光情報などの提供 再掲 視点1④	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	(略)
【北九州市立図書館協議会による評価】			
地域の特性などを活かした図書館づくりについては、各図書館の努力が認められるため評価を高くしてよいという意見もあった。次年度はA評価となるよう、各図書館のさらなる活動を期待する。その他の項目については妥当な評価である。			

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 子どもの読書活動の推進	①子ども図書館の整備 完了事業	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実	●子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館の整備は、平成30年12月22日完了。
	②子ども図書館における子育て・家庭教育支援などの図書・資料の充実 図書館評価 B (B)	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	【取組状況】 ●子ども図書館の2Fに児童図書研究室を設け、引き続き家庭教育支援用の図書を収集した。 ※令和4年度末蔵書数5,725冊(令和3年度末:5,561冊) 【評価の理由】 ●家庭教育支援用の図書・資料の充実を図ることができたため、「B」評価と判断した。
	③「はじめての絵本」事業の実施 図書館評価 A (A)	出生前の早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、母子健康手帳の交付時に絵本を配布する「はじめての絵本」事業を実施	【取組状況】 ●母子健康手帳の交付時に絵本パックの配布を行った。 ※配布率99.5%(令和3年度99.5%) 【評価の理由】 昨年度同様、99%以上の方に配布することができたため、「A」評価と判断した。
	④絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施 図書館評価 B (B)	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	【取組状況】 ●子ども図書館や地区図書館・分館で、感染対策を行いながら、絵本の読み聞かせやおはなし会を実施した。前年度と比較すると、回数、参加者数ともに大幅に増加した。 【評価の理由】 ●コロナ禍であったが、回数、参加者数ともに回復傾向にあり、読書に親しむ環境づくりを行うことができたため、「B」評価と判断した。 【読み聞かせ・おはなし会実施状況】

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
回数	765回	69回	317回	637回
参加者数	13,586人	1,298人	3,574人	7,124人

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1)子どもの読書活動の推進	⑤図書館における子ども向け相談窓口の充実 図書館評価 B (B)	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	【取組状況】 ●子ども図書館の受付カウンター2ヶ所にレファレンス窓口を設けるなど、各図書館で子どもの相談に応じる窓口を設けている。 ●その他、若松図書館、八幡西図書館及び戸畑図書館に子ども専用レファレンス窓口を設けている。 【評価の理由】 ●調べ学習などで気軽に相談できる環境を引き続き提供できたため、「B」評価と判断した。
	⑥調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実 図書館評価 B (B)	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	【取組状況】 ●各館において調べ学習用図書を積極的に購入している。 ●図書館ホームページ及び子ども図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ●各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットやパスファインダーを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、来館した児童生徒に配布した。 ●子ども図書館ホームページに「テーマ別資料リスト」を掲載したほか、新たに子どもが調べものをする際の手引きとなる「調べもののおてつだい」「レファレンス」を掲載している。また、児童向け百科辞典「ポプラディア」の更新や、その他辞典、図鑑、SDGs関連資料を購入した。 【評価の理由】 ●調べ学習を支援することができたため、「B」評価と判断した。
	⑦ヤングアダルト向け図書・資料の充実 図書館評価 B (B)	読書から遠ざかりがちな中・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、ヤングアダルト世代に人気のある小説、ライトノベル、進路、思春期の悩み、生き方、考え方に関する本等を購入して充実を図るとともに、ヤングアダルトコーナーを設置した。 ●中央図書館及び移転新設した折尾分館には、令和4年度は、別途予算を配分し、ヤングアダルト向け図書を集中的に購入した。 ●子ども図書館では、ホームページに「中高生(ティーンズ)向けのページ」を掲載するとともに、1F閲覧室にティーンズコーナーを設置し、ライトノベルや自己啓発、キャリア形成に役に立つ図書を充実させた。 【評価の理由】 ●ティーンズ層を取り込む環境づくりを行うことができたため、「B」評価と判断した。
	⑧家読(うちどく)の推進 図書館評価 B (B)	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	【取組状況】 ●地区図書館、分館において、家読コーナーを設置し、コーナーには、「家読ブックガイド」「おすすめ本リスト」を備え付け、家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ●子ども図書館では、保育所・幼稚園、学校に配布した「夏の読書カード」に、「家読にチャレンジ」というページを設け家読の周知に努めた。また、館内の特設コーナーに、読書カード及び発達段階に応じた「おすすめ本」を展示した。 【評価の理由】 ●家読の推進を図ることができたため、「B」評価と判断した。

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																					
(1)子どもの読書活動の推進	⑨地域人材の育成 図書館評価 B (B)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	【取組状況】 ●小倉南図書館では、読み聞かせ団体と共同イベントを開催した。 ●若松図書館では、若松区役所と読み聞かせボランティア育成事業を共催し、活動場所の提供を行った。 ●戸畑図書館では、高校生による読書会「戸畑ブッククラブ」を設立し、読書会の手法・効用などについて学ぶ機会を提供している。 ●子ども図書館では、地域で読み聞かせを行う人材を育成するため、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」(初級コース・中級コース・ストーリーテリング・ブックトーク)を実施した。 【評価の理由】 ●令和3年度はコロナで一部中止せざるを得ない講座もあったが、令和4年度は参加人数を制限しながらも全課程を実施することができた。これらにより、地域人材の育成を図ることができたため、「B」評価と判断した。 【講座実施状況(子ども図書館)】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読み聞かせボラ養成初級</td> <td>2回・53人</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">中止</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">中止</td> <td>3回・23人</td> </tr> <tr> <td>読み聞かせボラ養成中級</td> <td>1回・17人</td> <td>3回・27人</td> </tr> <tr> <td>ストーリーテリング</td> <td>1回・13人</td> <td>1回・8人</td> <td>3回・11人</td> </tr> <tr> <td>ブックトーク</td> <td>1回・6人</td> <td>1回・1人</td> <td>2回・12人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	読み聞かせボラ養成初級	2回・53人	中止	中止	3回・23人	読み聞かせボラ養成中級	1回・17人	3回・27人	ストーリーテリング	1回・13人	1回・8人	3回・11人	ブックトーク	1回・6人	1回・1人	2回・12人
		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																			
	読み聞かせボラ養成初級	2回・53人	中止	中止	3回・23人																			
読み聞かせボラ養成中級	1回・17人	3回・27人																						
ストーリーテリング	1回・13人	1回・8人		3回・11人																				
ブックトーク	1回・6人	1回・1人		2回・12人																				
⑩図書館職員の育成 図書館評価 B (B)	地区図書館で、読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような、図書館職員のスキルアップ	【取組状況】 ●福岡県立図書館主催の研修などに職員が参加した。 【評価の理由】 ●研修参加により、読み聞かせ技能などのスキルアップを図ることができたため、「B」評価と判断した。																						
⑪地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携 図書館評価 B (B)	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	【取組状況】 ●戸畑図書館、新門司分館では、市民センターにリサイクル本コーナーを設置し、児童書を含むリサイクル本を提供した。 ●各図書館には市民センターのイベント案内、市民センターには図書館だより、児童書を含む新刊案内を設置し、相互に集客について連携を行った。 ●地区図書館において、区役所との共催イベント、区役所の「親子ふれあいルーム」や市民センターの講座などに、図書館職員(司書)や読み聞かせボランティアを派遣した。 【評価の理由】 ●コロナ禍においても、着実に連携して事業を実施しており、「B」評価と判断した。																						

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(1) 子どもの読書活動の推進	⑫北九州市子ども読書の日の新設 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館 評価 B (B) </div>	全市的に子どもの読書活動の機運を高めるため、秋の読書週間に合わせ、市独自の「子ども読書の日」を新設	【取組状況】 ●子ども図書館では、ボルダリング体験会、謎解きイベント、中学生によるビブリオバトル、消防音楽隊コンサートなど、趣向を凝らしたイベントを実施した。 ●地区図書館、分館でも、「北九州市子ども読書の日」に、おはなし会、ブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを実施した。 ●学校に対して周知するとともに、当該日前後の2週間に読書に関する指導や取組を促した。 【評価の理由】 ●前年度に引き続き、図書館に行ったことがない子どもにも興味を持ってもらうという視点でイベントを実施することにより、来館のきっかけづくりや、中高生の活動発表する機会の提供など、大きな成果を生み出すことができたため、「B」評価と判断した。															
	地元ゆかりの作家作品の充実 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 再掲 視点1③ </div>	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	(略)															
(2) 学校における読書活動の支援	⑬学校向け団体貸出の拡充 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館 評価 B (B) </div>	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会などの場を活用し、「団体貸出等の学校向けサービス」について周知し、積極的な利用を呼びかけた。 【評価の理由】 ●貸出団体数、貸出数は前年度より減ったものの、ほぼすべての地区館・分館で団体貸出が利用されており、学校における読書活動や調べ学習を支援することができたため、「B」評価と判断した。 【団体貸出利用状況】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出団体数</td> <td>1,605団体</td> <td>495団体</td> <td>692団体</td> <td>521団体</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>9,771冊</td> <td>5,566冊</td> <td>6,655冊</td> <td>4,749冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	貸出団体数	1,605団体	495団体	692団体	521団体	貸出冊数	9,771冊	5,566冊	6,655冊	4,749冊
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
貸出団体数	1,605団体	495団体	692団体	521団体														
貸出冊数	9,771冊	5,566冊	6,655冊	4,749冊														

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(2) 学校における読書活動の支援	⑭学校貸出図書セットの拡充 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館評価 B (B) </div>	学校における読書活動や調べ学習などを推進するため、学年別・テーマ別に選んだ図書・資料を学級文庫や教材として使用する「学校貸出図書セット」を、より学校のニーズにあうように内容を充実	【取組状況】 ●「学校貸出図書セット」について、内容の更新・再編を行い、申し込み希望が多いセットを中心に11セットを増設した。 【評価の理由】 ●貸出件数は前年度より減ったものの、図書セットの内容を充実し、学校における読書活動や調べ学習を支援することができたため、「B」と判断した。 【運営改善措置】 学校からの要望を受け、学校貸出図書のセット数を増やすとともに、セットの再編を行う。 【学校貸出図書セット利用状況】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出セット数</td> <td>79セット</td> <td>93セット</td> <td>96セット</td> <td>107セット</td> </tr> <tr> <td>貸出件数</td> <td>77件</td> <td>101件</td> <td>76件</td> <td>56件</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	貸出セット数	79セット	93セット	96セット	107セット	貸出件数	77件	101件	76件	56件
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
貸出セット数	79セット	93セット	96セット	107セット														
貸出件数	77件	101件	76件	56件														
	⑮図書館司書や読み聞かせボランティアの学校などへの派遣 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館評価 B (B) </div>	図書館司書や読み聞かせボランティアなどを学校に派遣し、調べ学習や読み聞かせなど、読書に関する取組みを支援	【取組状況】 ●新型コロナウイルスの影響で、学校等が司書やボランティアの受入れを控えており、派遣件数は少ないが、前年度よりは増加している。 ●子ども図書館、地区図書館では、派遣依頼に基づき、図書館司書や読み聞かせボランティアを、学校、市民センター、放課後等デイサービスなどの子育て関連施設等に派遣し、読み聞かせやブックトークを行った。 【評価の理由】 ●派遣を依頼してきた学校や子育て関連施設には、希望に沿ったボランティア等を選び派遣することができ、件数も前年度を上回ったため、「B」評価とした。 【学校等への派遣件数】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>司書派遣</td> <td>2館10件</td> <td>1館2件</td> <td>5館27件</td> <td>6館59件</td> </tr> <tr> <td>ボラ派遣</td> <td>3館82件</td> <td>3館7件</td> <td>3館10件</td> <td>5館56件</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	司書派遣	2館10件	1館2件	5館27件	6館59件	ボラ派遣	3館82件	3館7件	3館10件	5館56件
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
司書派遣	2館10件	1館2件	5館27件	6館59件														
ボラ派遣	3館82件	3館7件	3館10件	5館56件														
	⑯学校関係者(教員、学校図書館職員など)の人材育成支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館評価 B (B) </div>	子どもに一番身近な学校で読書推進活動を行う教員、学校図書館職員などに対して、図書館職員が専門的な研修を支援	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会において、司書教員や学校図書館職員に対して、図書館が行っている学校向けサービスについて説明を行った。 ●市立図書館を学習に活用できる教職員を増やすために、学校向けサービスを分かりやすく紹介するリーフレットの作成を行った。 ●学校図書館を所管している関係課と連携し、ブックヘルパー向けの研修会を実施した。 【評価の理由】 ●学校図書館職員やブックヘルパーの資質向上を図る支援をできたため、「B」評価と判断した。															

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																													
(2) 学校における読書活動の支援	⑰子ども司書の養成と活用	子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、 ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す	【取組状況】 ●7月から8月にかけて、5日間で「子ども司書養成講座」を開催した。 【評価の理由】 ●コロナ禍での開催ということで、募集人員を削減して行ったが、定員を上回る応募があり、参加者全員が修了(子ども司書認定証授与)することができたため、「B」評価と判断した。 【子ども司書養成講座参加状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>35人</td> <td>28人</td> <td>27人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>16人</td> <td>5人</td> <td>9人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>51人</td> <td>33人</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	小学校	35人	28人	27人	29人	中学校	16人	5人	9人	7人	合計	51人	33人	36人	36人									
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																										
小学校	35人	28人	27人	29人																												
中学校	16人	5人	9人	7人																												
合計	51人	33人	36人	36人																												
図書館評価 B (B)																																
⑱小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	【取組状況】 ●7月～9月にかけ、市内の小・中・特別支援学校に対し、読書感想文の募集を行った。 ●秋の「北九州市子ども読書の日」の関連行事として本事業を位置づけ、表彰式を11月に実施した。 【評価の理由】 ●コロナ前の水準まで戻っていないが、令和4年度も令和2年度と比べ応募点数が増加したため、「B」評価と判断した。 【読書感想文表彰実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募点数</td> <td>33,226点</td> <td>10,179点</td> <td>26,576点</td> <td>26,094点</td> </tr> <tr> <td>学校数</td> <td>199校</td> <td>142校</td> <td>186校</td> <td>177校</td> </tr> <tr> <td>優秀賞</td> <td>28点</td> <td>28点</td> <td>28点</td> <td>28点</td> </tr> <tr> <td>優良賞</td> <td>93点</td> <td>93点</td> <td>93点</td> <td>93点</td> </tr> <tr> <td>入選</td> <td>2,600点</td> <td>1,095点</td> <td>2,401点</td> <td>2,431点</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	応募点数	33,226点	10,179点	26,576点	26,094点	学校数	199校	142校	186校	177校	優秀賞	28点	28点	28点	28点	優良賞	93点	93点	93点	93点	入選	2,600点	1,095点	2,401点	2,431点
		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																											
応募点数	33,226点	10,179点	26,576点	26,094点																												
学校数	199校	142校	186校	177校																												
優秀賞	28点	28点	28点	28点																												
優良賞	93点	93点	93点	93点																												
入選	2,600点	1,095点	2,401点	2,431点																												
図書館評価 B (B)																																

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(2) 学校における読書活動の支援	⑨小・中・特別支援学校等との連携 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図書館 評価 A (B) </div>	図書館と小・中・特別支援学校等との連携を図るため、図書館だよりの発行や児童・生徒の図書館見学・職場体験の実施	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館、分館において、毎月「図書館だより」を作成し、近隣の小・中・特別支援学校等に配布した。 ●新たな「子ども読書プラン」では「小学校在学中の図書館見学の実施」を掲げ、校長会等を通じ、学校へ図書館見学の実施について依頼。子ども図書館と地区図書館が協力し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を受入れた。 ●子ども図書館において、展示スペースを学校図書館用に確保し、小中学校の図書委員などが作成した本の紹介などの作品を展示した。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ前の水準とはいかない項目もあったが、実績が大幅に前年度を上回ったので、概ねコロナ前に戻すことができたと考え「A」評価と判断した。 <p>【児童・生徒の図書館見学及び職場体験実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見学</td> <td>13館84件 4,175人</td> <td>11館62件 2,246人</td> <td>13館118件 4,790人</td> <td>13館247件 8,124人</td> </tr> <tr> <td>職場体験</td> <td>9館44件 154人</td> <td>2館2件 2人</td> <td>2館4件 11人</td> <td>3館5件 13人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	見学	13館84件 4,175人	11館62件 2,246人	13館118件 4,790人	13館247件 8,124人	職場体験	9館44件 154人	2館2件 2人	2館4件 11人	3館5件 13人
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
見学	13館84件 4,175人	11館62件 2,246人	13館118件 4,790人	13館247件 8,124人														
職場体験	9館44件 154人	2館2件 2人	2館4件 11人	3館5件 13人														
<p>【北九州市立図書館協議会による評価】</p> <p>協議会として、この評価で概ね問題ないとする。 子ども、特にヤングアダルトに読書への興味を持ってもらうために行った本の配架やヤングアダルト向け蔵書の充実などの取組の成果について今後検証されたい。</p>																		

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 情報化への対応	① Wi-Fiの整備	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館のWi-Fi環境を整備	【取組状況】 ●令和4年度は折尾分館の新築移転開館にあわせて、Wi-Fi環境の整備を行った。 【評価の理由】 ●未整備の館に新たにWi-Fi環境を整備したことから、情報化への対応を計画的に進めているとして「B」評価とする。 【運営改善措置】 ●今後も未整備の館については、図書館全体の予算執行状況を勘案しながら設置に努める。
	図書館評価		
	B (D)		
② 中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	② 中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	【取組状況】 ●令和4年度は図書館ホームページの見直しは実施しておらず、令和5年度の見直しに向けて検討・準備を進めた。 【評価の理由】 ●令和4年度はホームページの見直しを行っていないが、令和5年度のホームページの見直しに向けて検討・準備を行ったため、「C」評価とする。 【運営改善措置】 ●令和5年度に予定されている図書館システムの更新に合わせて改善し、見やすい・利用しやすいホームページを作成する。
	図書館評価		
	C (D)		
③ 郷土資料のデジタル化への検討	③ 郷土資料のデジタル化への検討	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を検討	【取組状況】 ●中央図書館では、過年度に、所蔵する郷土資料の一部(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真など)をデジタル化や民間団体と協力したガラス乾板のデジタル化などを行い、利用者に提供している。 ●令和4年度は、中央図書館で、業務委託による若松石炭協会資料、門司図書館収蔵資料、旧国際友好記念図書館収蔵資料のデジタル化を行った。 【評価の理由】 ●郷土資料のデジタル化を継続して実施したため、「B」評価と判断した。
	図書館評価		
	B (B)		

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況									
(1) 情報化への対応	④子ども向け電子図書館の導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 図書館評価 B (A) </div>	コロナ禍の読書や学習機会の確保等を目的に、子ども向け電子図書館の導入(子ども向け電子書籍貸出サービスの開始)	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用促進のため、市立の小・中・特別支援学校の全児童生徒に学校を通じて、利用者IDを配付。また令和4年度には北九州市立高校の全生徒にも利用者IDを配布した。 ●民間資金を活用し、蔵書の充実を図った。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電子書籍の貸出ができる環境は整ってきつつある。一方、貸出件数は減少している。開館当初の一時的な貸出増加を考慮しても、「B」評価と判断せざるを得ない。 <p>【子ども電子図書館の登録状況】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用登録者数</td> <td>76,156人</td> <td>84,256人</td> </tr> <tr> <td>貸出件数</td> <td>16,672冊 ※開設初年度</td> <td>7,221冊</td> </tr> </tbody> </table>		R3年度	R4年度	利用登録者数	76,156人	84,256人	貸出件数	16,672冊 ※開設初年度	7,221冊
	R3年度	R4年度										
利用登録者数	76,156人	84,256人										
貸出件数	16,672冊 ※開設初年度	7,221冊										
(2) ニーズに応じたサービスの提供	⑤高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 図書館評価 B (B) </div>	バリアフリー化や大活字本の充実を図るなど、高齢者を含め、あらゆる人が利用しやすいサービスの充実	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館において、障害のある方に配慮した資料(LLブック、朗読CDなど)の収集を行った。 ●各館において、高齢者や弱視者も読みやすい資料である「大活字本」収集の充実を図った。 ●中央図書館において、障害者就労支援施設の協力による障害者サービス研修を実施した。 ●中央図書館では、身体障害者等により来館が困難な方を対象とした「郵送貸出」サービスを継続して実施した。また、令和3年度より読書バリアフリー法に対応し、新たにデジター図書・デジター再生機等の貸出を行う「録音図書等貸出」サービスを開始し、令和4年度においても引き続き対象者への貸出を行った。 ※令和4年度「郵送貸出」登録者数:94名 ※令和4年度「録音図書等貸出」登録者数:4名 ●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館では、館内に拡大読書機を設置し、各館において拡大鏡やリーディングトラッカーの館内貸出、コミュニケーションボードの設置等を行っている。 ●各館において、外国語資料の収集、提供を行った。 ●中央図書館では、やさしい日本語や外国語で書かれた利用案内リーフレットの配布や、やさしい日本語で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。また、コロナ禍で実施できなかった在住外国人等を対象とした「図書館ガイドツアー」を図書館まつりに合わせて実施した。 ●子ども図書館では寝ころびスペースやベンチなど多様な閲覧スペースを提供した(コロナ禍で一部使用中止)。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者などあらゆる人が利用しやすい図書館サービスの充実に継続的に努めたため、「B」評価と判断した。 									

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(2)ニーズに応じたサービスの提供	⑥子ども用トイレや授乳室の設置 図書館評価 A (-)	子どもと一緒に利用しやすい図書館づくりを目指すため、図書館整備にあわせ、子ども用トイレや授乳室を整備	【取組状況】 ●令和4年度は、折尾分館の移転開館に伴い、授乳及びおむつ替えができる赤ちゃんの駅を新たに設置した。 【評価の理由】 ●未整備の館に新たに整備を行ったことから、「A」評価とする。															
	⑦図書館以外での本の返却 図書館評価 B (B)	利用者の利便性の向上を図るため、駅など図書館以外で本を返却できるように、返却ボックスを設置	【取組状況】 ●小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコムシティ入口の2か所に返却ボックスを設置(平成29年7月)し、年末年始を除く毎日、利用に供している。 ●令和4年度は、前年度に比べ、全体として利用数が増加した。 【評価の理由】 ●コロナの影響により、貸出冊数そのものが減少している中で、返却ボックスは一定の利用があり、非来館型サービスのひとつとして利用者の利便性向上に寄与していることから、「B」であると判断した。 【返却ボックス利用状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小倉</td> <td>27,593冊</td> <td>18,776冊</td> <td>27,165冊</td> <td>26,939冊</td> </tr> <tr> <td>黒崎</td> <td>10,819冊</td> <td>7,034冊</td> <td>9,603冊</td> <td>10,158冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	小倉	27,593冊	18,776冊	27,165冊	26,939冊	黒崎	10,819冊	7,034冊	9,603冊	10,158冊
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
小倉	27,593冊	18,776冊	27,165冊	26,939冊														
黒崎	10,819冊	7,034冊	9,603冊	10,158冊														
	⑧CD、DVD資料の貸出とその充実 図書館評価 B (B)	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	【取組状況】 ●これまで各地区館の新設・改修などに併せて、視聴覚資料(CD・DVD)の継続購入に加え貸出を行える館の拡充に取り組み、令和4年度末現在、中央図書館、子ども図書館、地区館4館(小倉南、八幡、八幡西、戸畑)で館外貸出や館内閲覧の利用に供している。 ●特に子ども図書館では、家族や友だちと一緒に視聴できるスペースの確保も行っている。(コロナ禍で一部使用中止) 【評価の理由】 ●視聴覚資料の活用及び資料の充実について着実に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。 【CD・DVD貸出所蔵点数(全館計)】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出点数</td> <td>111,181点</td> <td>70,288点</td> <td>81,887点</td> <td>79,008点</td> </tr> <tr> <td>所蔵点数</td> <td>17,251点</td> <td>17,941点</td> <td>18,456点</td> <td>18,803点</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	貸出点数	111,181点	70,288点	81,887点	79,008点	所蔵点数	17,251点	17,941点	18,456点	18,803点
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
貸出点数	111,181点	70,288点	81,887点	79,008点														
所蔵点数	17,251点	17,941点	18,456点	18,803点														

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) ニーズに応じたサービスの提供	⑨学習活動の場、設備、図書・資料などの提供 図書館評価 B (B)	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書、資料などを提供	【取組状況】 ●各館における読書会等への活動支援については、コロナ禍により図書館内での会場の提供ができず中止とした館もあるが、例年に比べ実施回数を減らしたり資料提供のみ行ったりするなど、できる限り継続して取り組んだ。 ●小倉南図書館、若松図書館等で小中学校児童生徒の作品展示、調べ学習に役立つコーナー設置、資料リスト作成などを行った。 ●子ども図書館では、見学等で来館した学校の児童・生徒に対して、図書館利用の学習を行った。調べ学習に使う図書資料に関する相談を受け、資料の紹介や提供を行った。 【評価の理由】 ●コロナ禍により事業規模は縮小せざるを得ない状況であったが、継続して市民の学習活動に対する支援に努めたことから、「B」評価と判断した。
(3) 親しみやすい図書館づくり	⑩くつろいで読書のできる環境の充実 図書館評価 B (B)	・カフェテリアを設けるなど、くつろいで読書ができるように図書館の読書環境を整備 ・カフェテリアが街のにぎわいづくりに寄与するように、イベントなどの企画を検討	【取組状況】 ●中央図書館のカフェについては、令和4年度はコロナ禍による休館がなかったことから、営業時間が増え、くつろいで読書できる環境を提供できた。 ●令和4年度は、文学館とカフェの仲介役となり、文学館企画展とのコラボメニューの開発に寄与した。 【評価の理由】 ●令和4年度は、中央図書館のカフェにおいて、コロナ禍による休館がなかったことや、文学館企画展とのコラボメニュー販売イベント実施など、くつろぎの場を求める来館者のニーズに応えたことから「B」評価と判断した。
	⑪市立図書館への来館のきっかけづくりの提供 図書館評価 A (A)	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書・資料の配架や開催する講座、イベントなどを見直し	【取組状況】 ●八幡図書館では、近隣の公共施設や店舗と協働したイベント「やはたアートフォレスト」の開催により、図書館を含めた地域の回遊性を高める企画を実施した。 ●子ども図書館では、読書履歴を記録する「読書通帳」の運用を継続した。 ●子ども図書館では、「北九州市子ども読書の日」に、ボルダリング体験会、北九州市立大学の学生による謎解きイベントや読み聞かせ、中学生によるビブリオバトルなど、趣向を凝らしたイベントを実施した。地区図書館、分館でも、「北九州市子ども読書の日」に、おはなし会、ブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを実施した。 ●その他各館において、近隣の自治会との協力により図書館だよりを回覧したり、小中学校・幼稚園・保育園、病院等各種施設に図書館だより、新刊案内、行事チラシ等を設置したりして広報に努めた。 【評価の理由】 ●コロナ禍の中であったが、地区館でのイベントや「北九州市子ども読書の日」に際した様々なイベントの実施により、市民が図書館に足を運びかけを提供できたとして、「A」評価と判断した。

【北九州市立図書館協議会による評価】

協議会として、この評価で概ね妥当とする。

子ども電子図書館の運用についても、対象を拡大してIDを配布している点など評価できる。一方で、開館年度である令和3年度から貸出冊数が減少していることや大人も利用できるとしつつもそれがあまり知られていないことから、より利用される電子図書館となるよう、改善の余地がある。

視点5 市民参画型図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																					
(1) ボランティアの育成と活用	<p>①読み聞かせボランティア養成講座の充実</p> <p>図書館評価</p> <p>B (B)</p>	<p>読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館では、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」を実施した。昨年度はコロナのため中止となった初級及び中級講座を3回ずつ、ストーリーテリング講座を3回、ブックトーク講座を2回実施した。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナで一部中止せざるを得なかった2講座を開催し、コロナ前の状態に戻すことができたので、「B」評価と判断した。 <p>【講座実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読み聞かせボラ養成初級</td> <td>2回・53人</td> <td rowspan="4">中止</td> <td rowspan="2">中止</td> <td>3回・23人</td> </tr> <tr> <td>読み聞かせボラ養成中級</td> <td>1回・17人</td> <td>3回・27人</td> </tr> <tr> <td>ストーリーテリング</td> <td>1回・13人</td> <td>1回・8人</td> <td>3回・11人</td> </tr> <tr> <td>ブックトーク</td> <td>1回・6人</td> <td>1回・1人</td> <td>2回・12人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	読み聞かせボラ養成初級	2回・53人	中止	中止	3回・23人	読み聞かせボラ養成中級	1回・17人	3回・27人	ストーリーテリング	1回・13人	1回・8人	3回・11人	ブックトーク	1回・6人	1回・1人	2回・12人
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																				
読み聞かせボラ養成初級	2回・53人	中止	中止	3回・23人																				
読み聞かせボラ養成中級	1回・17人			3回・27人																				
ストーリーテリング	1回・13人		1回・8人	3回・11人																				
ブックトーク	1回・6人		1回・1人	2回・12人																				
	<p>②図書館ボランティアの育成</p> <p>図書館評価</p> <p>B (B)</p>	<p>市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館では、図書館ボランティア養成講座を開催し、ほとんどの終了者は、希望の館においてボランティア活動に参加しているが、令和3年度以降は、コロナ禍により養成講座の受講人数を例年の半分程度に限定している。 ●ボランティア登録者数(令和5年度に向けた活動継続希望者)は前年度末よりも増加した。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍により、受講者数を絞って実施しているが、登録者数は増加しているため、「B」評価と判断した。 <p>【ボランティア養成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養成講座修了者</td> <td>57人</td> <td>中止</td> <td>26人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録者</td> <td>322人</td> <td>263人</td> <td>241人</td> <td>243人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	養成講座修了者	57人	中止	26人	29人	ボランティア登録者	322人	263人	241人	243人						
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																				
養成講座修了者	57人	中止	26人	29人																				
ボランティア登録者	322人	263人	241人	243人																				
	<p>③ブックヘルパーの人材育成支援</p> <p>図書館評価</p> <p>B (B)</p>	<p>学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館において、ブックヘルパー研修(12月)を開催した。なお、新型コロナウイルスの影響により、各学校の活動状況がまだ把握できない状態であったため、学校における読み聞かせボランティア研修(2月)は中止した。 <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者を制限しての開催となったが、学校図書館ボランティアの育成支援を行うことができたため、「B」評価と判断した。 <p>【ブックヘルパー研修実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募者</td> <td>206人</td> <td rowspan="2">中止</td> <td>33人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>136人</td> <td>33人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	応募者	206人	中止	33人	33人	参加者	136人	33人	33人							
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																				
応募者	206人	中止	33人	33人																				
参加者	136人		33人	33人																				

視点5 市民参画型図書館

※()内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) ボランティアの育成と活用	④読み聞かせボランティアバンクの充実 図書館評価 B (B)	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	【取組状況】 ●「児童サービス担当者会議」等を通し、地区図書館や学校などで活動する読み聞かせボランティアの情報を、引き続き各地区図書館と共有した。 【評価の理由】 ●子どもの読書活動推進のためのネットワークを維持することができたため、「B」評価と判断した。
	地域人材の育成 再掲 視点3⑨	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	(略)
(2) 開かれた図書館づくり	⑤時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実 図書館評価 B (C)	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	【取組状況】 ●令和4年度は、コロナ禍による影響も減少傾向となったことから、図書館協議会を対面で2回開催することができた。 【評価の理由】 ●対面での開催が増加したことにより、充実した議論を交わすことができた。また、協議会委員の改選にともない、中央館の見学会を実施したことにより、図書館の実情を委員に把握していただく機会を得ることができたことから、評価を「B」とした。
	⑥運営に関する評価の実施 図書館評価 A (A)	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	【取組状況】 ●PDCAマネジメントサイクルの結果をわかり易くするため、令和3年度の評価(令和4年度実施)より「取組状況」「評価の理由」に加え、新たに「運営改善措置」を追加し、具体的な改善措置を実施する(予定を含む)こととし、「北九州市立図書館の運営に関する評価」へ反映を行った。 ●令和3年度の評価後、協議会委員の意見なども参考に次年度の評価に向けて評価の様式改訂に取り組んだ。 【評価の理由】 ●図書館法の評価の本来の趣旨である「運営改善措置」を明記することにより、改善の有無や過程を広く利用者に示せるようになった(行政の透明化)。また、これにより図書館の運営改善につながることから、評価を「A」とした。

【北九州市立図書館協議会による評価】

協議会として、この評価で概ね問題ないとする。
読み聞かせボランティア講座については、「第5次子ども読書活動推進に関する基本的な計画」(文科省)における子どもの読書への関心を高める取組を参考に、現行のもの以外の手法に関する研修の実施についても提案する。
また、図書館運営に関する評価における評価項目及び基準は、現行のもので妥当かどうかを次年度以降、見直す必要があるのではないか。